

保育計画成果報告書

法人名	学校法人
施設名	認定こども園 光の園たんぽぽ保育園
報告者(役職)	高石 知枝子(園長)
住所・連絡先	大阪市西淀川区大和田5-12-21
	☎ 06-6195-7466
	E-mail tanpopo@hikarinosono.ac.jp

○タイトル(保育計画)

<0歳児> おもちゃ大好き!お部屋でいっぱい遊ぶよ。

○主な助成備品

ボール、パタパタパフ、ソフト積み木等

1. 実施した保育計画策定の目的

0歳児は、室内あそびが中心だが、体力がついてくると走り回ったりと落ち着かないことが課題だった。なので、室内でも体を動かして遊べる粗大遊びを取り入れたいと思い、お願いしました。

又、指先が少しずつ器用になる時期なので、指先を使うおもちゃをお願いしました。

2. 具体的な実施内容

以前から園にあった囲いの中にボールを入れ、保育室にボールプールを設置した(写真1)。

下にマットをひき、転倒しても怪我のないように配慮し、子どもたちが中に入ったり出たりと、自由に楽しめるようにする。

パタパタパフ・・・おもちゃ棚に置き、遊びたい時に自分で取り出し遊べるようにする。まずは、認識しやすい丸の形のみにし、様子を見ながら四角など違う形を取り入れていく。



(写真1)

3. その成果と評価

ボールプールでは、ボールがあることで興味を示し、積極的に囲いを乗り越えて入ろうとする為、ダイナミックに動く様子が見られるようになった。その為、腕の力や足を上げるなど、新しい体の使い方を知る経験が出来た。また、ボールの上に座るなど自分でバランスを取ろうとすることで、体幹が鍛えられる遊びを取り入れることが出来た。

しっかりと体を動かして遊ぶことで落ち着き、静と動の遊びがしっかりと分けられ、集中して遊ぶ様子が見られるようになった。

パタパタパフでは、掴んだものを穴に入れるという行動の繰り返しで目と手の協応が育ち、また、いろいろな形があることで形の認識が出来、集中して遊ぶようになった。

4. 今後の課題と展望

ボールプールでは、遊びがマンネリ化してしまい、だんだんとすぐに飽きるようになってきたので、ボールプールのみではなく、ボールを使った遊びを取り入れ、展開していく必要があると感じている。

月齢や子どもの様子をしっかりと把握し、遊び方やおもちゃなど工夫していきたい。

○タイトル (保育計画)

<1歳児> 好きな遊びでいっぱい遊ぼう!!!

○主な助成備品

アスレチック・乗用玩具/足けり、クーゲルバーン、プラスチック、レナモザイク、ロンディ、ハンマートイ、型はめ(板・箱) など

1. 保育室実施した保育計画策定の目的

- ・保育室の隣にあるテラスに出て、いつでも粗大あそびができる。
→ 運動能力の発達を促す。
- ・たくさんある室内のおもちゃの中から自分のしたいあそびを選んであそぶ
→ 主体性を育む。

2. 具体的な実施内容

粗大あそび

- ・アスレチックの斜面を使って、ハイハイで上ったり、滑り落ちたりしてあそんだり、階段の上り下りをする。
- ・ピンキーは押し車のようにして歩行の練習をしたり、またがって足を動かしてバランス感覚を養い、運動機能の発達を促す。

微細あそび

- ・クーゲルバーンは、指先で小さい球をつまみ楽しみながら注目・追視の機能の発達を促す。

- ・プラステン、レナモザイク、ロンディは、様々な形をつまみ、箱のなかに入れたり、リングを棒に刺したり、並べたりしてあそぶことによって微細機能の発達を促す。それに加え、色の識別・形の認識ができるようになる。
- ・ハンマー玩具では、手首の運動機能の発達を促し、楽しんで遊びながら集中力を養う。
- ・型はめパズルは、形の特徴を認識し、型にはめようと指先を動かしたり、型にはまった達成感を感じることで次への遊びの意欲につなげる。



3. その成果と評価

粗大あそびでは、好きな時に全身を使って遊ぶことができた。

子ども達は、テラスに出て遊ぶことをとても喜んでいました。

ルールを作ることによってルールを理解して守るようになってきた。

微細あそびでは、たくさんあるおもちゃの中から好きな遊びを満足するまで遊ぶことができた。

微細機能の発達により指先に力が入るようになったことで、スプーンを持ったり、ズボンや紙パンツを自分でおろすことができるようになった。

満足するまであそぶことで、情緒が安定するようになった。

「できたね!」「上手だね!」とたくさんほめることで、意欲につながる事ができた。

4. 今後の課題と展望

出来ることが増えてきたので、自分のしたいことを自分でできるように自立へとつなげていく。

個々のあそびから、友だちと関わってあそぶことができるようにしていく。

○タイトル（保育計画）

<2歳児> 雨の日だっていっぱい遊ぶよ♡

○主な助成備品

巧技台、はしご、ピンキー、マット、色合わせセット、動物セット

1. 実施した保育計画策定の目的

戸外あそびのできる日はよいものの、天候の悪い日など外に出られない日のあそびの充実が、課題となっていました。そこで今回、室内で十分に体を動かして遊べる物、机上で集中してあそべる物、イメージをふくらませ遊ぶことの出来る物を助成備品としてお願いしました。

2. 具体的な実施内容

室内での粗大運動の充実をはかるため、巧技台を子どもが自由に使用できる位置に設置しました（写真2）。ほかにも写真3のようにジャンプが楽しめる設定にしたり、組合せを変化させて使用しました。

ピンキー（車）は室内でサーキットのようにしてルールをつくり、免許書をつくるなど1つのごっこ遊びのようにして週に1~2回ほど取り入れました。

動物セットは構造コーナー（積み木、電車とともに）に、色合わせセットは机の横の棚に置き、自由に遊べるようにしました。



（写真2）



（写真3）

3. その成果と評価

粗大運動の面では外に出られない日など室内をうろうろする姿も見られましたが、巧技台やはしごを設置することで体を動かし、うろうろする子はいなくなりました。また、十分に体を動かすことで室内あそびに集中してあそぶことができています。

ピンキーのサーキットでは、簡単なルールをつくっておきました。すると子ども同士で声をかけあったり確かめあったりする姿もみられ、ルールのあるあそびへと変化させることができました。

色合わせセットでは色をあわせるだけでなくバランスを保ちながら高く積み上げたり、ヒモ通しに使ったりしています。このことで楽しみながら目と手の協応を育てていきます。

動物セットは動物園にしたり、電車や積み木と組み合わせ1つのストーリーを数人で共

有して遊んでいます。

これらの玩具を置いた結果、‘静’と‘動’の遊びをわけることができ‘静’の遊びはより集中し、‘動’の遊びは十分に体を動かすことができました。

4. 今後の課題と展開

‘静’と‘動’のあそびをわけられ、とても集中して遊ぶことができます。

ただ、設定方法や遊び方などパターン化してしまっている部分があり、遊ぼうとしない姿も見られるようになってきました。より、子どもの興味をひくような設定や工夫を心がけていきたいと思います。

以上